

# 親子礼拝説教ガイド

2023年11月



日本キリスト教団平塚教会

## 【年間テーマ】自分の願いを知る

ひとつのことを主に願い／それだけを求めよう

(詩27より)

## 【11月のテーマ】 私の願い／みんなの願い

自分の願いが実現したとき、そのために周囲の人が幸せになることもあるでしょう。自分の願いと「みんな」の願いが一致すれば幸いです。

しかし自分の願いが叶ったために他者の利益が損なわれることもあります。定員のある試験に合格すれば、他の受験生が落ちることになります。それでも受験生は、フェアな競争がなされることよりも自分が合格することを祈願するのが普通です。臓器移植ドナーの出現を待つ親は、他者が死ななければ臓器が手に入らないとしたら、他者の死を願うことにもなり得ます。

私たちは、自分の願いを優先させることがほとんどです。大人にも難しい理想を無理に子どもに押しつけることはできません。それよりも自分の願いが人を傷つけることもあることに気付くだけで大きな成長です。「みんな」と言っただけで誰を指しているかを考えることも有意義でしょう。

## 11月5日 詩27篇(節の指定なし)

《聖書理解と説教作成のために》

2023年度の聖句は「**ひとつのことを主に願い／それだけを求めよう**(4節a)」です。神に幸せを願う人に神から与えられるのは、その人だけでなく他をも幸せにするものであるはずです。自分の具体的な願いが他に善いものをもたらさないとしたら、自分の魂の奥の本当の願いが自身でまだ分かっていないからでしょう。

## 11月19日 テモテへの手紙Ⅰ 第1章12節

私を強くしてくださった、私たちの主キリスト・イエスに感謝しています。この方が、私を忠実な者と見なして務めに就かせてくださったからです。

《聖書理解のために》

(伝統的にはパウロと言われる)本書の著者は、かつては正義のつもりで他者を傷つけていました。キリストから自分に注がれる愛と恵みを知って、信仰を伝え務めを喜びとを感じるようになったという証しが本節です。

《説教作成にあたって》

好きな食べ物や音楽などを人に紹介したいと思うのは自然なことです。喜ばしい生き方を伝えたいと願うこともそ

れと同じはずです。説教者自身の信仰による喜びの体験を思い出して紹介してあげましょう。

## 11月26日 エズラ記 第3章 12節

昔の神殿を見たことのある多くの年取った祭司、レビ人、家長たちは、この神殿の基礎が据えられるのを見て大声をあげて泣き、また多くの者が喜びの叫び声をあげた。

《聖書理解のために》

ダビデ・ソロモンの時代に栄えたイスラエルは、その後北イスラエルと南ユダに分裂し、北王国は紀元前8世紀に滅ぼされました。南王国も前6世紀にバビロニアの植民地となりエリート層がバビロンに移住させられたのが「バビロン捕囚」です。政変で捕囚を解かれた後、前5世紀に信仰復興を担った中心人物がエズラです。

《説教作成にあたって》

イスラエルの人たちは、信仰復興の基礎が出来て泣くほど喜びました。多くの苦労を共にしたために、その時に限っては目標が一致していたのです。大人でも感極まって泣くことはあります。一つの思いになって励んだ思い出は、聞き手の励ましになるでしょう。